







重綱 友花 基細 備中守  
 經負 大隅守 安重 綱長子  
 信綱 係三市 女三人 言本末馬室  
 女 系祇園 室書院室 久保形了室

堰政所

与刀十野 同心五十人



稻生安房守正甫

所知行千五百石 御役科千五百俵



御用日  
 二日 七日 十二日 十八日 廿二日 廿五日

前録

慶長五ノ成瀬隼人正同十八ヨリ朝倉藤十郎同十九ヨリ  
 芝山小共衛元和元ヨリ長谷川佐兵衛同五ヨリ喜多見  
 若狭守寛永五ヨリ嶋田越後守大坂ヨリ掛持 同六ヨリ  
 水野河内守同十ヨリ石河土佐守寛文五ヨリ水野伊与  
 守天和元ヨリ稻垣淡路守元禄元ヨリ佐久間丹後守  
 同九ヨリ大坂掛持与力同心大坂引越同十五ヨリ天野

傳四郎室永三ヨリ栗山甲斐守正徳元ヨリ淺野壹岐守  
 享保十四ヨリ水谷信濃守 寛保三ヨリ山田肥後守  
 當御奉行 延享四ヨリ 稻生安房守

与力同心衆 御役附

支死方 後志又左馬 川方 塚山哲太郎  
 寺社方 会務侍系

別府方 过村云左馬 比方 中村守左馬  
 会務侍系

所合方 过村云左馬 比具 伊波右左馬  
 户田与左馬 松原左左馬

石堤方 中村守左馬 比方 户田与左馬  
 伊波右左馬

与力 伊波右左馬 比 会務侍系  
 伊波右左馬

三 户田与左馬 比 过村云左馬  
 中村守左馬 上條守左馬

入 塚山哲太郎 比 塚山哲太郎  
 与力 一九郎

沖田公氣清没身

組次

羽根田右衛門  
青嶋五郎  
小谷権之助  
吉田与次郎  
藤崎守直

義次

破貝左衛門  
市川宗之助  
若田与次郎

目附

小沢若丸  
小川辰之助  
林山吉兵衛

川石境方

中田又助  
尾井与次郎

地方

志野与次郎  
村上与次郎

割身方

小高政之助  
西崎与次郎

漢方

小高政之助  
九松与次郎

清合方

河村清之助  
小高与次郎

他事方

小高政之助  
羽村清士八  
森 到次郎  
金井与次郎  
波辺与次郎

法義具

九松与次郎  
波阿才直  
今井与次郎  
坂浦与次郎

山也

金井与次郎  
波辺与次郎

物書  
梅方

小林与次郎  
上井与次郎  
山上与次郎  
田ノ庄一

日平岡紅石

上田辰之助  
柳本与次郎  
別和八三

松田大次郎  
九松与次郎  
木蓮次郎  
谷山与次郎

九松与次郎  
破貝辰之助  
石川与次郎  
柳本与次郎

山上与次郎

松田辰八

天野新平

秋山又六

湯浅大助

松本与次郎

堺惣年寄 并惣代職事

南組惣年寄 惣代職事

金田辰柳山  
海戸辰基与次郎

高志与次郎  
吉志与次郎  
久 与次郎

同惣代

田中勘介  
武部元七

十條利次

同職事

大塚与次郎  
堀友市

河上且三郎

北組惣年寄 并惣代職事

若原与次郎  
長尾与次郎

小西清之助  
高之清与次郎

同惣代

若原与次郎  
松原与次郎

若原与次郎  
森田与次郎

同職事

松本与次郎  
吉田与次郎

林 与次郎



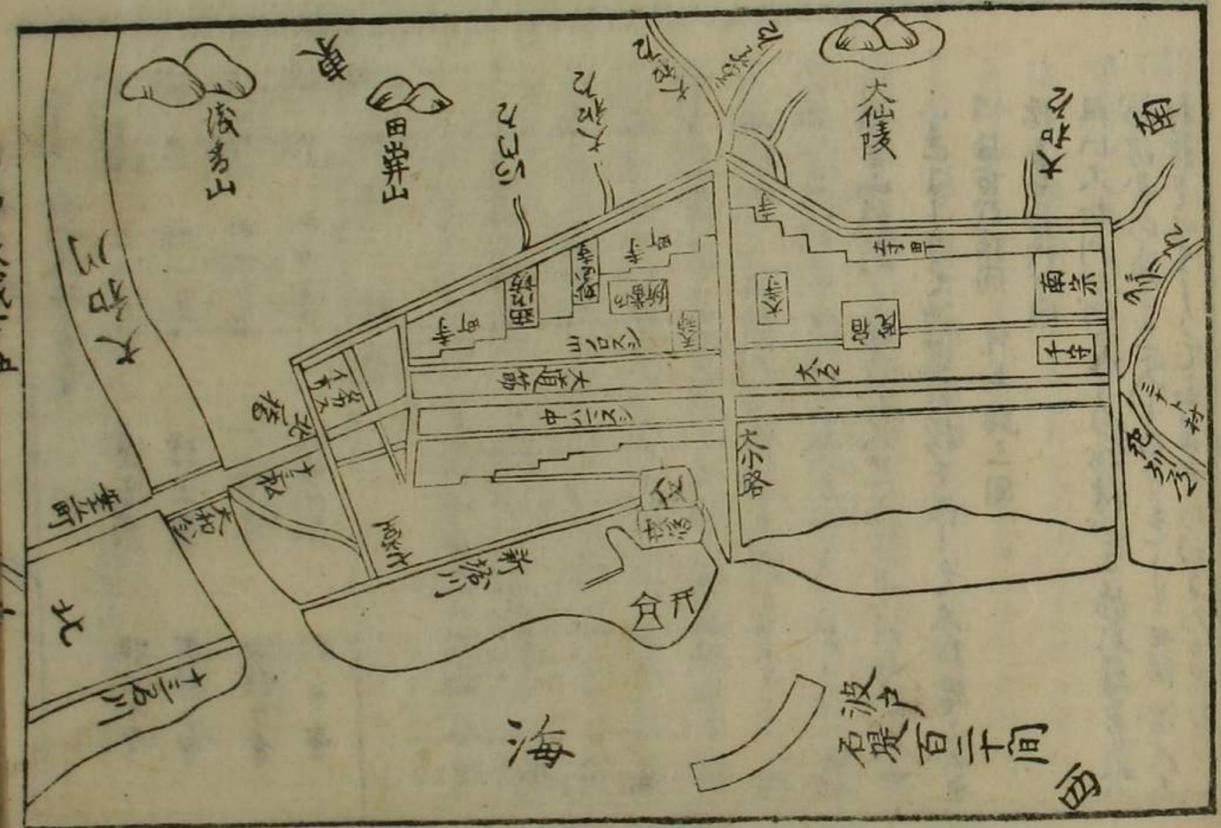
白糸列舟並る  
 御合入百九や  
 長島  
 大坂

堀大圖

堀と云六所の内大小路より北に控付居や南に和泉  
 丸玉やよりて堀と云  
 東西せばくまわき之何や西に海を隔り東に  
 六所の外に堀川をて隔と寸 南に堀と分り  
 て二所也  
 堀跡のハ白鳳二年のり延享四年と凡千七百  
 年  
 御合入百九や  
 長島  
 大坂

所敷合二百八十丁 横丁合六十丁

古敷合八子之右又控付居  
 借家合百五子之右(百五)  
 古の堀 北の堀 長サ 七丁二尺七寸  
 北の並松之所は控付居 大なる 六丁  
 他小の入口は大和橋と云る



寺尾合石八橋七ヶ寺

天台宗	二ヶ寺	真言宗	七ヶ寺
禪宗	一ヶ寺	浄土宗	七ヶ寺
法苑宗	四ヶ寺	一向宗	四ヶ寺
時宗	一ヶ寺	大念仏宗	二ヶ寺

大和川 同橋

大和國中の流るる大和川をれハ大和川也  
 のより河内郡の山形川の方より村の最  
 流れて和泉村の東より又市村の南より  
 石川ハ大川為合石八尾久室寺村の南より  
 三身田村の南より又大坂 市城の東より  
 京橋の十(流)川より合大川より又元禄  
 七年川邊より河内郡和泉村より西(流)切  
 後香出川とて堺の入口並松の中より入也  
 西よりして流るる橋とて大和橋と云也  
 川幅百廿五間 堤馬路三間  
 橋長百廿五間  
 但大和川ハ河内郡より流るる川也  
 和泉の神は二入りの川も世に流るる大  
 和橋と云ふより和泉の神は入りの老翁

新堀川

堺戎橋ハ近江の海中へ築きたる橋なり  
 近年 築洲の事より入りて入海も甚多なり  
 己れよりして延享元年 命ありて大和川  
 より新堀川とて新堀川とて新堀川とて  
 新堀川とて新堀川とて新堀川とて  
 地と云ふ事 幸六丈と云ふ事

石堤波戸

堺の海は古より大濤して海浜の狭小は遠  
 集るといふも海浜も多かりしなり  
 享保五年は秋より三丁中沖中は長サ百廿五間  
 石堤波戸を築きて西海の大浪とせしむ  
 是よりして地も多かりしなり  
 是よりして地も多かりしなり

坊惣取敷

也取	橋波	石形舟	橋波
波海取	橋波	平田取	百波
取取	百波	取取	取取
取取	取取	取取	取取

土産 工商之部

朱座

宿屋町大庄  
朱座物四并

鉄炮師

日下 枝垂屋五郎  
日下 山田 八五郎  
日下 芝田 長五郎  
日下 松中 守三郎  
日下 芝田 利左衛門  
日下 安田村 六三郎  
日下 井川 与三郎  
日下 松中 守三郎  
日下 枝垂屋 伝三郎

茶相場取

茶相場請負人 山本茂三郎  
會所市ノ所漢 向屋中安政百人

伽羅沉香回屋

日下 林次下 沉香屋仁義  
日下 沉香屋八三郎  
日下 沉香屋伝三郎  
日下 沉香屋次郎

右の外茶枝多入の長海平多入之外向屋中安政不  
教多政多し、まゝの端端工記とて仍て略し

漆箔織屋

日下 坂中 源三郎  
日下 大井 久十郎  
日下 井川 利三郎  
日下 平の 久仁三郎

和泉 山吹屋 仁義  
和泉 山吹屋 次郎  
和泉 山吹屋 八三郎

和泉 山吹屋 仁義  
和泉 山吹屋 次郎  
和泉 山吹屋 八三郎

きせ尚屋

きせの始ハ天正年中、唐より渡りて、唐の津小  
船より何と云ふといひ、きせの字と傳り、きせと  
ひろくとなりぬ。玉座をきせと稱す。板中、安政

からかさ師

山吹 山吹屋 仁義  
山吹 山吹屋 次郎  
山吹 山吹屋 八三郎

打栗

南真ノ店 泉田久三郎

毛綿回屋

小刀屋 源七  
大和屋 忠勝  
尾花 大五郎  
小山屋 久三郎  
岩 茂三郎  
坂屋 次郎  
尾花 八三郎  
毛濃屋 茂三郎  
坂屋 八三郎  
尾花 八三郎  
小山屋 久三郎

小石川又々	小石川又々	布衣又々
布衣七系	布衣七系	山崎又々
日 山崎	山崎又々	山崎又々
中村 山崎	山崎又々	山崎又々
和泉市利系	山崎又々	山崎又々
和泉市安系	山崎又々	山崎又々

和泉郡 和泉市 和泉郡 和泉市

文徳院助系	石別化系	分洞又市
石別化系	石別化系	分洞又市
石別基系	石別化系	分洞又市
石中坊系	石別化系	分洞又市
石中坊系	石別化系	分洞又市
山城 伴系	石別化系	分洞又市
山城 伴系	石別化系	分洞又市
松本孫系	石別化系	分洞又市

生奥 同屋

每朝市南ノ戻

久吉右系	松吸系	松吸系
永長九系	松吸系	松吸系
赤尾九系	松吸系	松吸系
高天石系	松吸系	松吸系
代文石系	松吸系	松吸系
太市石系	松吸系	松吸系
細石石系	松吸系	松吸系

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市

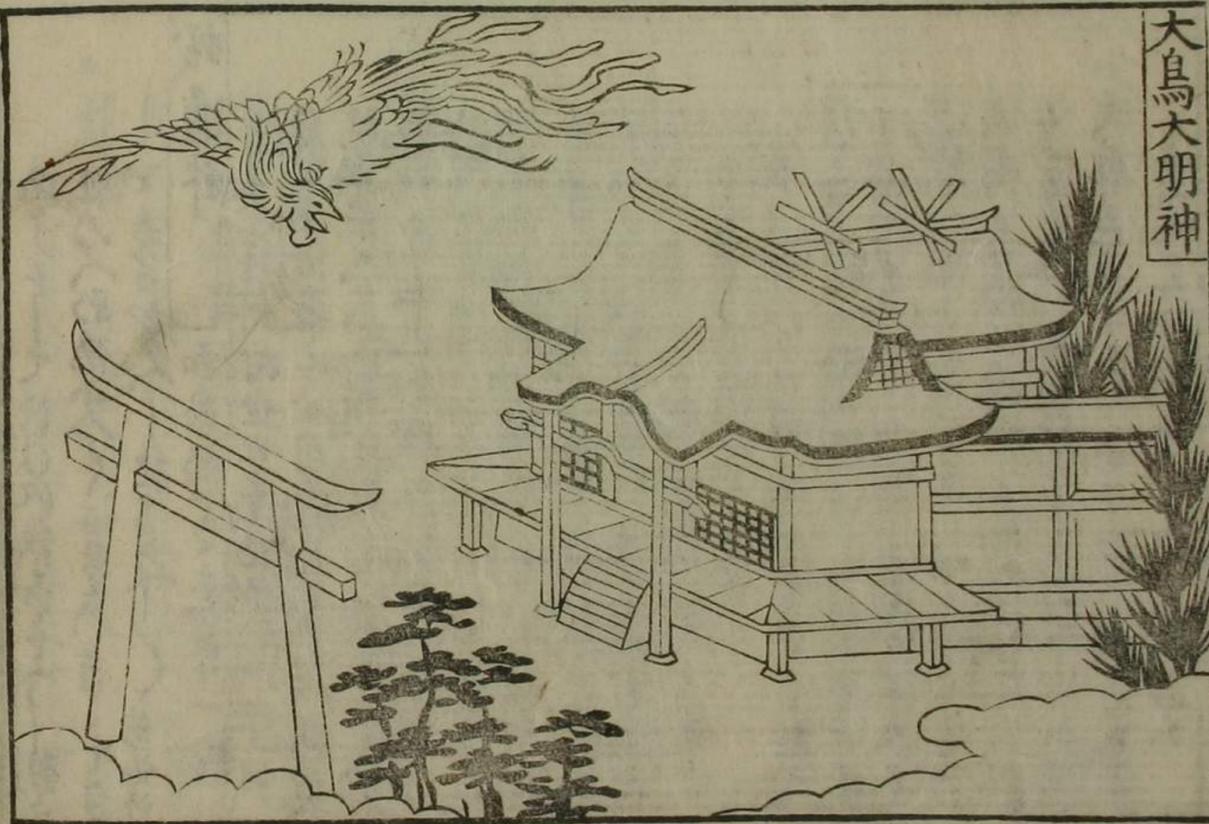
和泉郡 和泉市

和泉郡 和泉市





大鳥大明神



大鳥大明神

大鳥大明神

蟻通之社



蟻通之社

蟻通之社









鬼道たより陵墓に仁徳帝乃中  
魁乃雅郎子多踏非也天皇に携り  
路以山城國免道より以浦小のり  
自と免一多と即ち以地小葬事の  
と中他人ゆり或は以陵を推古天皇乃  
陵たより支後ありと云ふ事あり  
武内高孫墓 一 大仙陵より神小あり三  
國山より平来乃方し世人長塚山より  
武内高孫天皇より後神天皇より  
六朝小住より長あり

▲泉列塚古跡

定と云ふ所村本戸村(小倉)と白  
井領村中條村原村(三村)と云  
五波小浜 九井松 西経村(軍)波取  
乃山阿波小波九波あり以淡浦小ありせ  
分小波取と以所乃松九井小ありと云ふ  
不と波乃松と云ふり波乃向小波の居  
今旭蓮社乃円徳寺七社の外小別と  
九井松の村と云ふ一社波ひまもは祭  
石宿後乃色と云ふ九波小波と云ふ  
神乃松村乃南不表宿

飯野

乃山小波と云ふ飯野山波乃阿波  
降と云ふ小波と云ふ今塚と稱す小波の位  
吉乃神波小波ありて今以傳来と  
右も出せり宿院乃有に  
五波の飯野小波あり宿院とす此所の  
干珠と云ふ小波と云ふ是南中く陽小  
表す波珠の位吉廻斎乃是り出出傳  
と云ふ地小波と云ふ是小波と云ふ陰小表と云ふ  
と云ふこれ六月乃神樂局後乃飯野  
小波ありの六干珠乃あり九月の神樂  
と云ふ出傳へりと云ふは飯珠乃系と云ふ  
九井松の村の係一史と云ふは

田植勅所

例年伝言由因六月廿  
八日小波雨津吉町乃起女事りて植勅  
る多恒例ありを備は是候ありと  
或候と云ふ飯小波

七堂

七堂依置乃伝と云ふか云と云ふり又七册  
乃起傳たより是のいかに曰天皇の傳  
浦へありありと云ふ七つ小波と云ふ  
乃れは継令と云ふ全神と云ふ事あり  
乃れは乃り七堂乃後と云ふ飯乃神樂と

開上人の志波小のりく徳地難と  
七度修り成りて又い漢中  
七月八月小踊大会佛わり河内必来時  
乃大会依乃流中をよ上へ有来りは所  
乃三昧小教くそよとわと佛依を  
如一切聖具法界無碍のよ小踊念  
佛能行わり

高野堂

宿院町之大師の決教

勢至塚

塚穴乃之宗が八極堂

朴津里

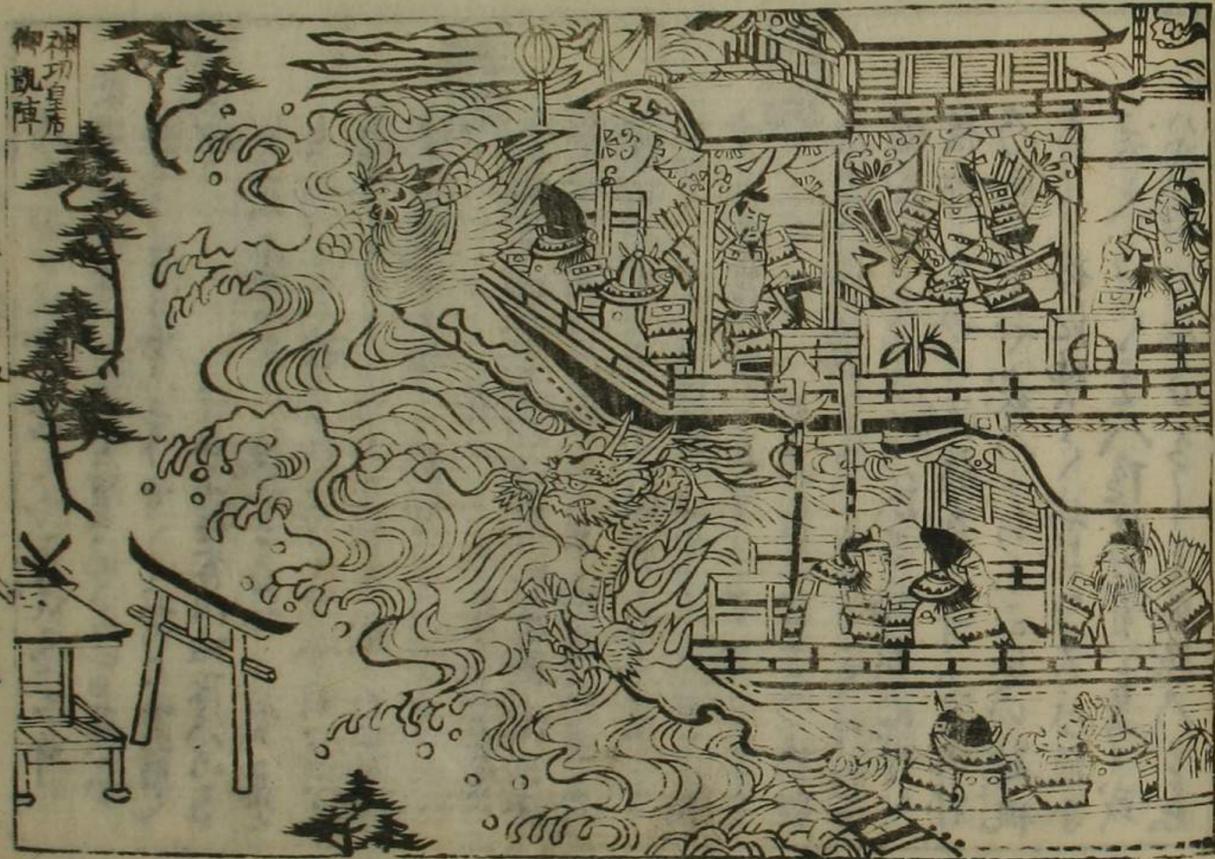
採刈し名所伝者小舟

玉横野

商家乃内利徳高乃

戸立野

以而い世傳小云祖父の上



神功皇后御凱陣



天と安五寺あり井の旭蓮社乃ち  
泉とあり龍窟末作其跡不測乃ち  
同呂あり其跡長太園もい風是と孫  
徳とあり一に威入の先除乃ち孫  
始とあり其跡太ふりり此處實  
文小延徳也

市 戎 井 大黒町 石像乃其也

弘法大師乃幼徳と市町乃其也と  
崇めまねりありてその市夷町と  
いり 又大黒町とて是も大師の  
天と幼徳とあり

白井 白井乃井 白鬼乃其也

此乃三時乃ふ小なる基が三河の地  
小阿加井とあり初とせり小居井あり  
白井乃其也徳と流又ハ其基小と用  
く平念とあり

海會 海會寺乃井 白井の太古門あり

昔海会寺乃用山乾峯和尚の跡一  
跡とあり小居井一を法皇小井北  
と名とせり初とめ法皇と漏れこれ  
と和尙小居のあり井あり心慶年  
中乃あり一とて此れゆり

ちうに色中く其と見えたりとて今  
俗小池若町とあり海会寺今南家  
ちれ内小居と稱り首ハ太古のい  
小居とあり

龍井 龍井 白井の文ゆれは今林六部

三師と云へり傳り免取乃法一向宗  
万福ちれま配とありり古への井と  
ち一入龍あり一灰白井の居とあり  
白井居ありとて太園乃其時茶湯の  
用ありせり

高瀬 高瀬 小乃店町乃其也

と云高女町とされは昔も此といつる白拍  
子の居ありとて居と引之と地とて  
高瀬高女とされハ一体和尙高瀬の二  
は居と云へり高瀬より此の  
史一より高瀬とあり此の地とて  
こわをりこれハ 高女地とて

こゝろりこれハ和尙やとてあり  
二白と書とてゆきせり  
又此井ト高瀬高瀬小住居の初也  
高瀬のこゝろり此の地とてあり

▲泉列山川古蹟ノ記

横山

新六帖

先後

何ぞといふ處と云ふ泉の横山炭のゆくぬん  
坑産名物に記す白炭一程と出さるる  
後云ふ炭乃湯燗中乃炭炭あり炭乃  
湯乃炭と云ふ炭と白く炭て用ゆと云  
ふ炭小乃炭と引さりハ前乃炭云  
あつた物と云ふこと

あつた山

又云ふ小同炭云々

和泉乃山

名不詳物 花 麻

志保乃山

名不詳物 花 麻

志保乃山

名不詳物 花 麻

志保乃山

名不詳物 花 麻

志保乃山

名不詳物 花 麻

志保乃山

名不詳物 花 麻

志保乃山

名不詳物 花 麻

志保乃山

名不詳物 花 麻

志保乃山

名不詳物 花 麻

志保乃山

名不詳物 花 麻

新六帖の泉列山川古蹟ノ記

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

志保乃山

名不詳物

新六帖

先後

何ぞといふ處と云ふ泉の横山炭のゆくぬん  
坑産名物に記す白炭一程と出さるる  
後云ふ炭乃湯燗中乃炭炭あり炭乃  
湯乃炭と云ふ炭と白く炭て用ゆと云  
ふ炭小乃炭と引さりハ前乃炭云  
あつた物と云ふこと







日乃中おそく乃漁人とあり

一寺観 凡標ラきニ記セリ

其處山久經之旭蓮社

与願早石

南の才二主は村と久中乃建之開山  
智恵上人の遺教を以て法宗小寺の  
窟小入く、廬山蓮社乃宗祖と信承  
改修乃より旭蓮社と興起と誓ひ、  
社号乃極楽の上人立世法廣く、  
一八白皇慈悲一和の極号一々  
人宗其法隆院、乃極可歌一々  
又阿弥陀經と經と終り上人承  
慶安八年壬子七月廿七日、  
多の門迄之目成ありて忌日す  
地神料曰石而高代小あり、  
中殿部あり是念仏長乃乃乃場  
結ぶ七社明辨 又極品乃乃  
前小可寺

三國山向泉寺

与願九十石

聖武天皇乃初開基ハ乃基崇  
か多ク支観善結書祇堂牛頭天

五なり建立乃初小阿伽井と名て  
法泉と名り放小向泉寺と号山寺  
泉河橋乃乃小橋小放小三國山と  
稱す別乃遍照光院と号す、  
三國橋地乃伽藍之永正年中、  
火小の門とく、院滅之に、  
門と流乃乃小橋す、  
柏考今終慶徳より秀吉云乃流之  
封田九十石と稱小流高代小、  
朱中殿部たり

法渡山悲田院

与願八十石

後奈良院天文年中、  
上人姓ハ源氏江利作、  
中乃何跡、  
終極境現乃其愛小、  
別号とて、  
如く乞食、  
悲田院とて、  
流高代西より、  
法高辨、  
弘法大師の彫刻

法澤山極樂寺

与願廿石

与願廿石

因基行基が... 八尺の基乃高... 同多く山号... 又法界引身乃... 又市町といひ... 梅子阿倍... けり一白小... 乃六火小... 人中... 我交... 五朱... 教命... あり

金老古

ち於十九石

茶和年中乃... 浦乃海中... 乃天乃乃... 乃法美... 演上人... 再興... あり

中比... 浦前... 友と... 老乃... あり

龍興山南家寺

ち於百振石

後... 刺... 中興... あり





上人海陽立かち乃本寺より成此朱  
中殿命りたり  
在十口ケち小天祥乃常承寺三村の  
会公ちと加く是と十六ケちとあり  
先代より此當家不立りもてち本家  
建寺く以て其よりなるに在りなり  
も八百世辰之寺く

坊野

永保五年小達三浦山日蓮傳西  
建寺乃檀主の徳信常云と此の三  
身徳乃身をかりてち小大徳信  
一板わり三三二間を寸板廻り三間二  
寸板本た小十二ケち希代乃此物  
聖天正十年六月小家康云此上流  
よりくさるるに成所を

勢國院殿光徳実体墓 三身  
又法名龍音寺殿以徹實体上号

小御坊信徳院

西中殿寺  
古殿三百石  
文昭年中小櫻本居乃此と云此あり

開山上人より八世乃新築蓮如上人  
信徳院上号と信徳院よりなる院と  
建寺一列信徳院と号し乃信  
系信乃信徳院と号り昔乃中寺を  
聖徳太子あり是今此乃此寺なり  
信乃也今乃中寺の身十二代信如  
上人乃自ら信徳院と号り此の衰  
小信判事なく遊くとも此後より  
信乃今乃信徳院安坐せり此後  
三百石の田二百石の衆引尾尾村  
所一二十石の畑列山村乃御中く系  
於かち人納所と  
在十六ヶち外是又二十ヶちと入大段  
古徳蓮社より此と十八ヶち此後  
是よりなり

南中坊聖徳院

東中殿寺

慶長年中に西然寺二代  
云々開山上人より十一世乃系孫院  
上人乃信徳子殿如上人東中殿寺  
と信徳よりなるに成所を  
古徳興部上人小あり乃信徳乃

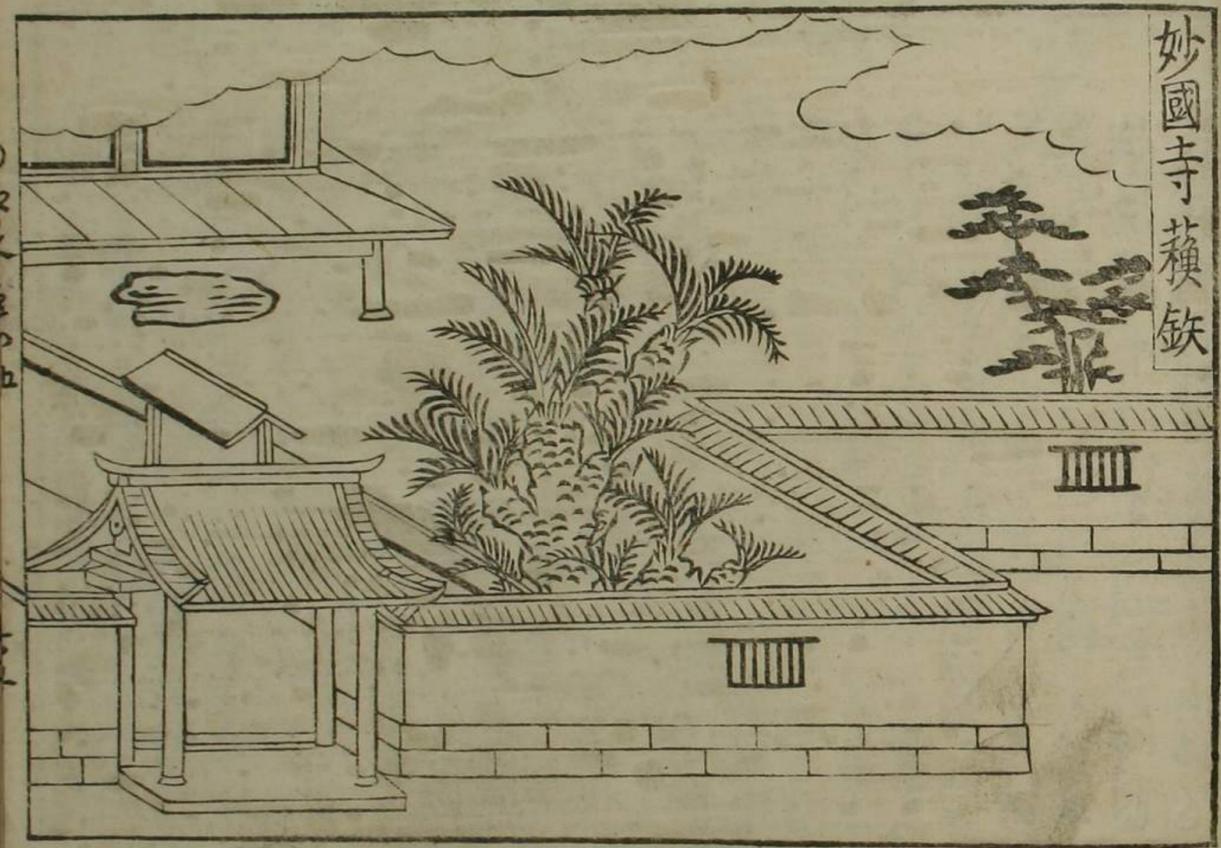
和泉府志 廿四

乃場とせり昔乃院号と今小笠りて  
唯用山伏なるハ大師乃他也  
徳定寺 古伝小記と記が協へ四院  
と終失く来申之傳はる十一西  
親者当海中より出現乃薩摩  
勢とあるありて

專修寺 永保元年小笠上人  
乃開基有りて上人生座詳りあり  
天性醜ゆりて耳目乃觸る不記  
志く云れす一代乃業業化身又  
奉慶徳徳乃切是志あり泉列  
高境西向あり及比徳井村乃名稱  
等城ひて山列あり活平寺院と  
再興一掃津より大坂一心寺乃  
處と美建一よりあり上六十三  
あり建点と通るありて院法身  
此乃利堂之新住持念仏三昧  
入く竟小天云六年十丑又明廿七日  
在何所徳徳と指口念仏誦文  
塔座合掌一法秋八十二歳あり  
入寂す一心寺再興乃切終り一  
住持此丘を信矣と感して一心寺

乃場とせり昔乃院号と今小笠りて  
唯用山伏なるハ大師乃他也  
徳定寺 古伝小記と記が協へ四院  
と終失く来申之傳はる十一西  
親者当海中より出現乃薩摩  
勢とあるありて

妙國寺 蘆鉄



代々も持せざる元祖の自承乃難  
波乃名号とある其幅と云々小  
菰占り多り此名号乃謂れ粉別  
乃ち親一心吉乃不志るせり毎年  
正月廿五日の用と云り後人小菰  
寺に慶長年中より又大將軍家  
康玄つと上流小菰寺なりと云

少林寺

後醍醐天皇御宇に  
中小建立せり用基桃源和尚禪師  
の小林氏あり此中少林小林寺と  
書し小菰建磨大師乃少林寺  
と表志と云後小女乃字小波  
名中は家野大徳寺乃後以英  
梅院乃末流なり昔ハ大か盛光  
境内廣りといはれ長足石とられ  
寺門をめぐり城ありと云  
あり此地町少林寺町と云  
と記せり後秀吉公奉状ましく  
て右乃藪林とゆふれこれ上門の  
波町より地と云地小納しむる平  
乃後境町中乃地は秘苑の四圍  
くは波町乃地と云云ありと云

色けり又は塔以耕雲房ふつと  
約物乃古より是云と云り

紫雲山妙法寺

海陽妙法寺乃  
末古用山日英上人あり天正年中  
小僧法師來り中興す又古内小  
日英上人乃自承乃石塔を故世  
俗小石塔乃古先より此上人あま  
弘通乃對海上あり波乃西に眼目  
と書すつら波不ゆと云清光寺  
と云石塔あり一圍七石あり  
ありと云今此石塔も一基あり  
ありと云り

怒山了光寺

用基年代未詳  
中古海陽縣怒山あり興基  
あり今不詳なり未乃礼と云す是  
小園と云ふなり又思若と稱す中  
山上人乃名號乃由教と云り此  
長秀法師不附信志と云不詳り  
あり人王百七代正親町院は親像  
と云依作ありと云都ふなり此  
乃殿も由緒縁ありと云上人乃  
一教記傳と云後承ふわそり後法

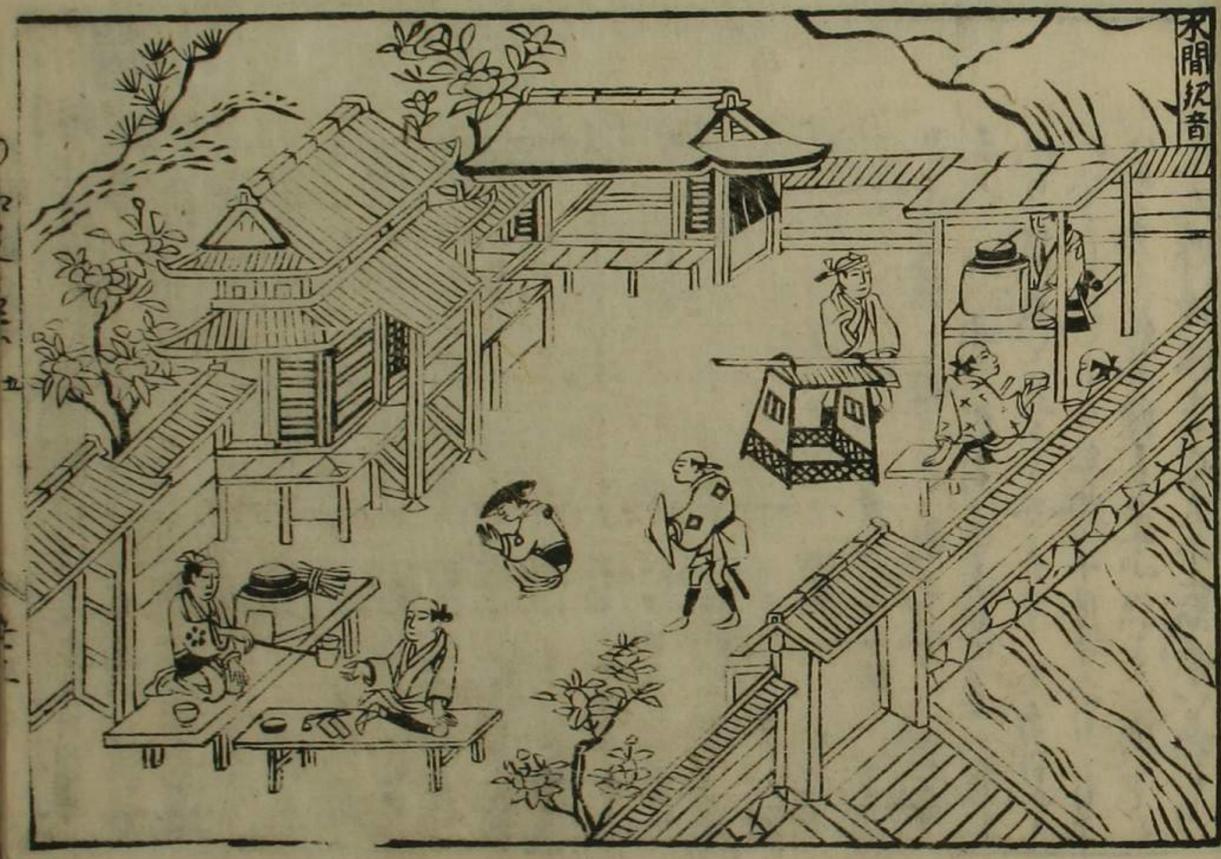




水間寺

聖武天皇乃所立於基

其後と用山乃祖と守天皇あり年の三  
 月初午乃日乃新宮城乃西あり板世  
 大士乃号像まゝすことと号後と受  
 させりひ列乃基師小令志とこれと  
 りたりしり多り乃基泉列小より整  
 とまゝ山洞に入るひ路の十六寺子  
 小室多ひくそに列ありそ内山川  
 細るく神終列られ大無乃像と諸  
 てこれと乃基小附と且又終乃乃掌  
 とか切と古にこれと附とてあぐ  
 仏法書後乃極と多す物と書中と  
 終るい王長合款とく林刺とてか  
 と書書と安重と多り皇帝瑞雲の  
 日成とく尚山乃忠目と定りあふ今  
 小室り毎年終午小の男女衆信のく  
 びすとてく冥路ひとこれとく備有終  
 像終堂半仏舍利殿終終終終乃乃頭  
 室と分世小まれ多り物と終るに終年  
 中小終小か多り多り終とて終室  
 物と持とく終山と終院小終れを  
 終終堂等と巴陵院小終せりあり



水間記音





とありて和泉國とあり

天祚前掃

此掃ハ掃と引小宮掃  
もく髪ふとにたてし部をみす

徳木履

今断乃木履と上  
のぬけふと云す

寄踏

寄踏乃掃ハ此  
尾切と云物と月神ノ利休寄乃以

袖松丸

白乃衣袖松丸乃  
田花より他り出さるる例状

鬼煎餅

海玄志乃おかし  
此煎餅一甲く此煎餅をたてりいさじ謂ん

紅紫豆腐

此名ハ勝乃孫朝小  
色あすすといふるふましくた小射も

前

任吉大前乃社乃  
物と云り又ハ人乃も実核の此縁受

推糸箱

任吉大前乃社乃  
此推糸箱乃奥乃口と云ふ沙りゆくの

金

元和年中乃法庵人  
此津小後りて孫居松屋と云ふハ小

標去度

世乃に標去度と云  
此入と云くもやと云ハ人振中地の生

世乃に標去度と云

此入と云くもやと云ハ人振中地の生

世乃に標去度と云

此入と云くもやと云ハ人振中地の生

世乃に標去度と云

此入と云くもやと云ハ人振中地の生

世乃に標去度と云

此入と云くもやと云ハ人振中地の生

世乃に標去度と云

此入と云くもやと云ハ人振中地の生

世乃に標去度と云

此入と云くもやと云ハ人振中地の生



天川子子紙

大寺原履 芳器梳

上村箕

高尾節

畠田下新

新田文系粉

和泉園寺唐舎七百貳拾六ヶ寺

同大小社合九百六社

村敷合二百八拾五ヶ村  
檢地石高拾六万三千二百貳拾肆石

深目浦々 塙より谷川まで

石津浦 浪子 助松 大津浦

岩和田流城下 北所奥五ヶ所 坊所 下所 右所  
貝場浦 形取 坊中添村 形取 形取

か形 吉見 畠田 尾崎 形取 形取  
新村 波子 若紀村 浪崎浦

谷川 大坂より右海へ流るの流ぬけり 右より  
塙大小流より谷川大石紀列塙を拾一里下り右同  
谷川より右へ流海に流

紀列加間 二里 紀列田邊 二十里  
同和泉浦 八里 塙 拾二里

浪崎原 一里

浪崎原 一里

同 岩倉 塙

大坂 塙

岩和田分(塙)

橋子 二里

塙 二里半

石橋 九里

石橋 七里

石形 塙

石形 十二里

一ノ谷 九里

大坂 六里半

浪崎若原塙

塙より紀列へ石法

大坂若原塙 七里

大小流より大流 二里

具原分法形 七里

具原分具原 一里

具原分伝道 七里

具原分伝道 七里

山中分和分山 二里半

同伝道

具原より伝道 七里

伝道より橋子 七里半

橋井分 下分 七里

下分分若原 七里

若原分谷川 一里半

谷川分紀列加間 七里

和泉園以上

右之板行万一打遠く...  
板元と...  
國花分明集和泉國終

延享五戊 辰年三月吉日

順慶町一丁目

田原平兵衛

同 五丁目

石原茂兵衛

南久宝寺町五丁目

人見理兵衛

心齊橋筋

村田平 七

綿袋町

中村庄兵衛

順慶町五丁目

澁川與市

浪華書林

和泉國終  
前山

